日本共産党
流山北部後援会

ニュースあすなろ

2018年８月
第２３４号
発行責任者
菊池 伍郎
TEL/FAX
7154-0526
小倉 卓郎
TEL/FAX
7155-0272
（部内資料）

いのちと安全守る行政の責任

６月議会報告会　人口急増・暮らし・防災

植田和子市議による第28回６月議会報告会が８月１日（水）北部公民館で行なわれました。植田議員の一般質問に対する市の答弁や６月18日の大阪地震を受けて、日本共産党市議団として19日、市長に学校のブロック塀の点検や備蓄品などの地震対策の緊急要請を行ったことの報告がありました。

「老朽校舎」の問題では、市内の学校の中で一番古い築60年となる江戸川台小学校のコンクリート調査の結果、「建て替えが必要」との診断があったと答弁がありましたが、「いつ着手なのか」の具体的な事は示されず、「一日も早い対策を！」と引き続き要望を強めたいとの報告でした。

その他、人口急増で問われる大規模校の問題がクローズアップされていること、学童保育の小学６年生までの受け入れの陳情が否決されたこと、東海第２原発の「もしもの時」は、流山市は水戸市から避難住民を受け入れる動きがあるものの、原発再稼働に反対を表明することはなかったことなど、日本共産党として「命と安全を守る行政の責任」を問いただした内容が報告されました。

参加者から

「憲法９条を守ることと核兵器をなくすことに関して、賛成しているのは近隣では、我孫子市だけ。賛成する市町村とそうでないところがあるのはどうしてだろう？」

「おおたかの森小と小山小などの大規模校問題では、２校で１０８学級とは！子供の命、成長に関わること。どんな運動が必要なのだろうか？」

「防災に関して、江戸川が決壊したら土台が高いと言われる江戸川台も安全ではなくなるかも・・・。春日部のような貯水池は出来ないものか」「３・11の時の避難住民に対する市の対応は充分ではなかった。」など、日々の生活や人口急増、防災などで、問われる自治体のあるべき姿に様々な意見が出た議会報告会でした。

東深井　Ｙ・Ｔ

女性差別に抗議

再稼働やめ　原発から撤退を!!

８月３日、東京医科大学が女性受験者の得点を一律に減点していた問題で市民らが大学前で怒りの抗議行動をしました。

「女性」だというだけで減点するという露骨な差別が、10数年も前から継続的・組織的に行われていた事が捜査でわかってきました。

男女平等・女性活躍が世界の流れになっている中で、日本の教育の場が、後進国・男優先の社会から脱却していない事が見えてきます。女医が家庭優先せざるを得ないからというのならそれ自体を変えるべきです。その発想は無いのでしょうか。

自民党の国会議員は最近でも女性蔑視や人間の多様性を認めようとしない攻撃を当然のように続けています。弱者、少数者を認めることが民主主義です。人権は憲法に守られています。正当な権利を守りましょう。ＹＫ

医科大学の前で抗議行動をする市民（しんぶん赤旗８月４日号より）

こんにちは　植田和子です

８月10日　台風13号、流山市には大きな影響がなくてホッとしました。でも、これからが本格的な台風シーズンと言われます。異常気象に加えて巨大地震も心配ですね。

９月議会では、防災対策も大きな課題に位置付けて取り組む予定です。

大阪北部地震では、ブロック塀の問題や住宅の一部損壊への公的支援が重要な問題として浮上しました。この問題は、流山市にとっても同じ課題です。

みなさんからのご意見、ご要望もお聞きして議会準備を進めたいと思います。９月議会は８月30日から始まります。お誘い合わせて傍聴においでください。

まだまだ厳しい暑さが続きますが、くれぐれも熱中症には気をつけてお過ごし下さい。　植田

19年参議院選挙　市民と野党の共闘・日本共産党の躍進を！

日本共産党演説会

９月１日（土）午後２時～
柏市民文化会館大ホール

日本共産党副委員長・参議院議員　**市田 忠義**
参議院千葉選挙区 予定候補　**浅野 ふみ子**
参議院比例代表 予定候補　**しいば 寿幸**
千葉県議会議員　**加藤 英雄**

入場無料

入場券を同封させていただきました。お誘い合わせておいでください。

ヘッドライト

命掛けた翁長知事

沖縄県の翁長知事がしんどくなった。ショックだ。元は自民党員で長年保守の立場で那覇市の市議や市長を務め、基地問題でも当初県内移転を主張していたが、本土政府は一向に沖縄の苦しみに応えないなかで、沖縄の意見をまとめたオール沖縄の「建白書」がまとめられた▼知事選では「普天間基地の閉鎖・撤去、県内移設断念、……、あらゆる手法を駆使して、辺野古に新基地はつくらせない。」ことが掲げられ勝利した。そして国政選挙でも自公は惨敗した。事ここに至っては民意を無視し続けているが、翁長知事はブレずに反対を貫き、国を相手取って裁判も辞さなかった▼こうした力の源は「オール沖縄」という、立場を超えた県民の支えがあったからだ。翁長さんは「県民の命と暮らしを守る」という本来の保守の政治家の在り方を命がけで示してくれた。政党支持や将来の国の在り方への意見の違いはあっても手を結ぶことが出来るし、それが大切なことを教えてくれた政治家、それが翁長さんだと思う。お疲れ様でした。安らかにお休みください。

平和思う夏

原水爆禁止平和大行進

夏が来ると思い出します。広島から上京し我が社に入社して、被爆がもとで亡くなった後輩のO君のことを。

広島・長崎に原爆が投下されて73年。権力者はどうして戦争という名のもとに、極悪な核兵器を開発し罪のない市民を虫けらのように殺すのでしょうか。いつもそんなことを思いながら、今年も7月22日、原水爆禁止国民平和大行進流山コースに参加しました。

行進参加の若い東葛看護学校の3人に会いました。そして、広島の原水爆禁止世界大会に参加する青年の派遣募金の訴えに快く募金しました。若い皆さんに受け継いで欲しいと…。

アメリカを中心とした大国や唯一被爆国の日本政府はいまだに核兵器を無くそうとしていません。諦めず、粘り強く核廃絶に向けて歩き続けます。

東深井　K

北海道からの通し行進者山内金久さん（右端）を先頭に猛暑に負けず平和大行進

原水禁2018年世界大会広島に参加

開会式に5千人が参集し、広島市長の挨拶、被爆者の生々しい体験の話から始まり、閉会式には、6千人もの参加があり、若人が今大会の決議を広島から呼びかけ、会場参加者全員の賛同を得て閉会となりました。

併せて、1万1千人の参加者が集結し、この時、若人に引き継がれて行くことを確信しました。海外から27か国、日本では、初めて「原水禁」と「原水協」との共同、全労連、日本被団協、総がかり行動実行委、オール沖縄会議などが。小池晃参議院議員が登壇し、熱い平和へのコールをされ、大歓声と拍手で会場は一つになりました。その共同の合言葉は No Nukes（核なし）No Base（基地なし）No War（戦争なし）です。広島の気温よりもアツイい熱気でした。

壮大なむだ遣い　八ッ場ダム建設現場を見て

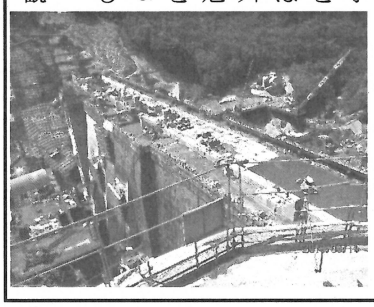
今年の5月、群馬県の八ッ場（やんば）ダムの建設現場を見てきました。一番感じたことはダム建設がもの凄い事業だということです。

高さ116メートルまで、とにかくコンクリートを積み上げていく必要があります。高台から見ていると、小さく見えるダンプカーでコンクリートを運び、おろしたところを平らにならしていました。一日平均460人が働き、しかも24時間作業で、完成が何と2020年3月ということです。今後1年半この作業が続いていきます。

そもそも、このダムは必要なのでしょうか？地元の村や墓地や温泉地、それに鉄道までも移転させました。地元の粘り強い反対運動もありました。民主党政権時は工事が中止されました。このダムがなくて今まで困ったことがあったでしょうか。今でも不便はありません。5千億円を超えるこの事業は壮大なむだ遣いと言われても仕方がないと思います。ゼネコンを儲けさせるためのダム建設のような気がします。

こういう大型公共事業にお金を使うのではなくて、毎年災害に見舞われるこの日本では、危険個所対策などにお金を使うべきではないでしょうか。ここまで来てはもうやめるわけにはいかず、地元住民もこのダムを観光の目玉にしたいと思っていると思います。民主的でない政権は、国民には社会保障を削る一方、とんでもない税金のむだ遣いをするものだと思いました。

（西深井　S）



八ヶ岳と富士山が喧嘩した？

今夏、八ヶ岳の最高峰である赤岳（2899m）に登った。赤岳から少し下った所にある展望荘からは、すぐ目の前に赤岳山頂が、その左側には遥か彼方にうっすらと富士山を見ることが出来た。

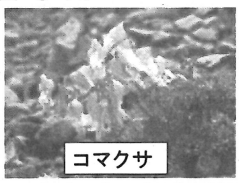
「八ヶ岳の民話」とされる話を思い出した。

大昔、富士山と八ヶ岳が背の高さを競って喧嘩をしたそうだ。らちがあかず2つの山の山頂に樋を掛け、渡し水を流すと水は富士山の方へ。大喜びをする八ヶ岳。

一方、富士山はあまりの悔しさに樋で八ヶ岳を打ち砕いたそうだ。八ヶ岳の頂上は八つに砕け今の姿になってしまった。との事。2つの山を見比べながら、「そうか～大昔そんな喧嘩をしたのか～」と何とも楽しげな気持ちで赤岳を後にした。

途中、高山植物の女王「コマクサ」を目の前（足元）で観る事ができ、疲れが吹き飛ぶほどの癒しをもらい、元気に下山することが出来た。

東深井　Y子


コマクサ

赤岳頂上近くから遠く白い雲の中に浮かぶ富士（左下方）を望む

毎年夏に思うこと

小学校の6年間戦中でしたが、国民学校の夏ようやく終戦を迎えました。終戦の詔勅（しょうちょく）の意味は全く分からず、ただ今夜から電灯に黒いカバーを掛けなくて良いと思ったものでした。

外国を見ても始まった戦争はなかなか止められません。今は武器も攻撃手段も凄まじい勢いで進化しています。あの頃の日本は隣組のままごとの様な演習、防備で勝てる筈も無いのに止められませんでした。他国にも迷惑を掛け、日本自体も大変な一時代を迎えました。十二歳の幼い私の目で見た観察と経験を通してですが、よくここまで立ち直り発展したものだと人間の強さを感じています。世界の人々が深く考え戦争の無い地球にならなければと思っています。今、スポーツ、コンサートやイベントに大勢集っている様子を見て平和だナーとの思いと同時に複雑な想いが私の心をよぎってゆきます。

東深井　M

人の命の尊さを何よりも大事なことだと改めて心に刻み込まれました。

東深井　石橋

あすなろ川柳

●ダウンより
リングの外に
真の敵
アマチュアボクシングの世界も不正審判疑惑等から大揺れ。

●スポーツ界
次はどちらで
告発か
声をあげ始めたスポーツ界。

●大手術
必要なのは
医学界
医大で女性の学生を少なくするため入学試験の点数を不正に減点していた。裏口入学だけでなかった。